

今月のテーマ
国体に参加しよう!

田上市長の
恋ツとトコ
～自らの思いを皆さんに語るコラム～

「長崎がんばらんば国体大会」まであと一年になりました。

国体は、国内最大のスポーツの祭典です。長崎で国体が開催されるのは2回目。前回は昭和44年だったので、45年ぶりです。ということは、前回の国体を覚えていたのはほとんどが50代以上のかたということになります。

私は当時、中学一年生でしたが、オリンピックの聖火に当たる炬火リレーが行われたことや、天皇皇后両陛下をお迎えするのに沿道に立ったことを覚えてます。

オリンピックや万博、サッカーのワールドカップなどの大イベントは、時代の共通体験として多くの人の記憶に残ります。身近な体験でいえば、中総体もコーラス大会もお祭りもそうです。それは、一人ひとりの体験であると同時に、気持ちの一つにしたという共通体験として記憶に残ります。

来年の「長崎がんばらんば国体・大会」も、そんな個人体験、共通体験の一つとして、多くの人の思い出に残るものになりたいと思います。

* * *

祭りやイベントは、見るだけより参加する方が、より強心に残ります。ぜひ多くの人々が国体に参加して、半世紀に一度の大イベントを一人ひとりのいい思い出にしてほしいと思います。

とは言っても「国体に参加するのは特別な人たちだから」と思ってしまうませんか？実は、国体に参加できる方法はいくつもあります。

一つ目は「デモンストレーションとしてのスポーツ行事(デモスポ行事)」です。これは正式競技とは別に行うもので、ほとんどのデモスポ行事は、県内に在住まいる子どもから大人まで、だれでも参加できます。がんばらんば国体では19のデモスポ行事があり、長崎市内では「お手玉」「けん玉」「ビリヤード」が行われます。家族やグループで参加すると楽しそうです。

二つ目は「運営ボランティア」。競技会場での受付やドリンクサービスから清掃までいろいろなボランティアアスタツフ



として参加できます。一日だけでもOK。今年にはリハーサル大会があるので、すでに募集中です。どんどん参加してください。

三つ目は「花いっぱい運動」。自治会や老人会、企業などで花を育てる、という参加の仕方です。育てた花は会場に置いて、選手や応援団を歓迎するのに一役買います。

四つ目は「おもてなし」。国体では約90万人が長崎県を訪れます。手作りののぼりを作るといっておもてなしもあれば、道で迷っている人を案内するということもおもてなしの一つです。

五つ目は「観戦と応援」。ほとんどの競技を無料で観戦できます。日本のトップレベルの競技を観戦できるチャンスです。

* * *
半世紀に一度の地元での国体です。長崎らしいおもてなしで、長崎に住む私たちにとっても、訪れる選手や応援の人たちにとっても思い出に残るものにしてほしい。

関心のあるかたは、ぜひ国体推進部・総務企画課・広報市民力係 ☎829-1280へお問い合わせください。お待ちしております。



べっ甲で作れないものはない?



こぢんまりとした洋館の中はお宝満載!!

出かけて見る・知るまちのオススメスポット



あなたを鑑定は○○○万円?
べっ甲工芸館

松が枝の四海樓の前に白壁の洋館があります。ここは知る人ぞ知る長崎の宝石箱「べっ甲工芸館」。館内はあめ色と漆黒の魅惑的な輝きであふれています。

今にも動き出しそうな鯉や天馬など、熟練の職人が、微妙な加減で水、熱、圧力を加えて形を作り、繊細に彫刻し、丹念に磨き上げた秀逸品の数々に目を奪われます。

江戸時代、唯一の貿易港であった長崎は、原料の海亀「タイマイ」が入りやすかったため、日本でも最もべっ甲細工が盛んに。多くの作品が長崎から全国や海外へ送られました。

価値がはかりきれないほど巧みな細工品が満載の「べっ甲工芸館」。35ページの市民無料入館券で、ぜひ一度、目の保養にいかがですか？